

## 『つながる にほんご』の使い方

### ◇テキストについて

このテキストは、堺市の地域日本語教室で学ぶ、日本語能力が入門レベルの学習者向けに作成した教材です。はじめて日本語を学ぶ人が地域社会とつながるために、自己紹介をしたり、一日の生活について話したりすることができるようになることをめざしています。このテキストは第1課から第7課まであり、7人の登場人物による、9つの話(語り)と2つの会話で構成されています。1課の活動時間の目安は90分から120分です。活動は第1課から順番に進めてください。

テキストには、すべてローマ字が載せてあります。ひらがな・カタカナが習得できていない学習者にはローマ字を手掛かりに活動を進め、徐々にひらがな・カタカナが覚えられるように支援してください。

p.11～p.13に各課の活動の手引きがあります。活動のヒントや留意点が書いてありますので、ご一読ください。

### ◇副教材

テキストのほかに、『ことば』(p.67～p.90)と各課の本文  をイラストにしたイラスト資料(p.91～p.122)があります。イラスト資料は、本文を練習する活動のときに使ってください。また、活動前に、本文とイラスト資料を照らし合わせて、本文の内容がイラストのどの部分に該当するか確認しておきましょう。『ことば』(p.67～p.90)は、学習者が自分のことを話すときに参考にできる資料を集めています。【言いましょう】【話しましょう】などの練習のときに活用してください。

### ◇各課の構成と使い方

#### 1)【あたらしいことば】

この課で出てくる「あたらしいことば」をイラストで示しています。

イラストを指して、日本語ボランティア(以下、「ボランティア」という)が発音し、学習者に繰り返し、言ってもらいます。学習者は、イラストをヒントに言葉の意味を理解しますが、イラストだけでは意味がわかりにくいものは、その場で学習者に調べてもらってください。この活動は、ことばを覚えることが目的ではありません。学習者がことばを聞いて理解できるようにしましょう。あまり時間をかけず、練習は5分程度を目安としてください。

\*イラストは基本的な意味を表しています。本文の意味と合わない場合もあります。

例)  飲みます

(イラストでは水を飲んでいますが、本文は「みそ汁を飲みます。」です。)

2)【本文】…の部分

本文の上に、タイトルと語り手(第5課は会話の登場人物)のイラストがあります。

- ① 本文のタイトルを読み、本文を語る人物のイラストを指して、本文のテーマとだれの話か(第5課はだれとだれの会話か)を伝えます。
- ② ボランティアは学習者にイラスト資料を見せながら、本文をゆっくり読みます。学習者に本文の意味が伝わるように、イラストを指して、ジェスチャーもまじえて、1文ずつ学習者の理解を確認しながら読んでください。学習者が本文の意味を理解するまで、2、3回繰り返して読んでもいいです。
- ③ 学習者が本文の意味を理解できたら、ボランティアはイラスト資料を見せながら1文ずつ発音し、その後に、同じように学習者に言ってもらいます。テキストの文字を読まずに、できるだけ1文が滑らかに言えるようになるまで、何度も繰り返し言う練習をします。1文が長くて言えない場合は、「、」(読点)や区切りのいいところで切ってください。滑らかさが出てくるまで何度でも根気よく練習しましょう。
- ④ 次は、学習者が、本文をすべて音読します。まずは、テキストを読んでみます。ひらがな・カタカナがまだ読めない場合は、ローマ字で書いてあるほうを見て読んでもらってください。また、ボランティアが先に読んで、学習者にはテキストの文字を目で追いつながりながら読んでもらってもいいです。すらすら言えるようになるまで、繰り返し練習をします。
- ⑤ 最後は、イラスト資料だけを手掛かりに、本文をすべて言ってみる活動です。イラスト資料を全部示して、学習者に言ってもらいます。少し単語が抜けてしまっても、意味が通じれば大丈夫です。

3) 

「本文」と「Q&A」に出てくる、イラストでは表現しにくいことばを英語・中国語・ベトナム語に翻訳しています。違う母語の学習者には、自分で意味を調べてもらいましょう。

## 4)【Q&amp;A】

「本文」の内容について、質問して、答える練習をします。疑問詞の意味や疑問文への答え方を学ぶことができます。テキストには、質問も答えも書いてあります。ボランティアと学習者が1対1の活動の場合は、ボランティアが質問をし、学習者に答えてもらいます。学習者が複数いる場合は、学習者同士がペアになって、質問し、答える練習をします。テキストを見て質問や答えが言えるようになったら、ボランティアが質問し、学習者にテキストを見ずに答えてもらいます。

## 5)【言いましょう】

学習者自身のことにおきかえて、文を作ります。ここでは、1文か2文程度の短い文で、口慣らしの練習をします。学習者に必要な言葉や表現は、ボランティアが提示してください。

例) 家族は\_\_\_\_\_にんです。→ 家族はふたりです。

## 6)【まとめ】

「本文」に出てきた文のパターン(文型)が視覚的にわかるように、示してあります。活動の最後に、学習者のニーズに応じて、その日のまとめとして、一通り読むといいでしょう。

## 7)【話しましょう】

「本文」を基に、学習者自身のことを話す練習をします。【言いましょう】同様、学習者の状況に合わせて、適宜変えて練習してください。話す練習をする前に、下線部分にメモをしておくと、練習がスムーズに進みます。

## 8)【書きましょう】

【話しましょう】で話したことを書いてまとめる練習をします。この練習では、文のパターンを確認しながら、まとめた文が書けるようになることをめざします。書いたものを次の活動日に読んでもらうと復習になりますし、ボランティアとのおしゃべりのきっかけにもなります。聞く・話す・読む・書くという4技能の習得にもつながる活動です。また、はじめはひらがな・カタカナの読み書きができなかった人も、課が進むにつれて、ひらがな・カタカナで書いてみようという意欲につながったりもします。毎回でなくてもいいので、書く活動としてぜひ取り入れてください。

## ◇ローマ字表記のルール

- 1)50音の表記は『ことば』の「文字」(p.70)を参照ください。
- 2)長音の表記は、母音二つを並べて表記しています。

例)じどうしゃ → jidosha  
 がくせい → gakusee  
 コーヒー → koohii  
 サッカー → sakkaa  
 スーパー → suupaa

## ◇本文を語る人たち



マリアさん



りさん



アンさん



チョウさん



北川さん



北川さん(妻)



北川さん(息子)